2008年度スローガン
挑戦
三原を元気にする「まちづくり」へ

JCI 社団法人 三原青年会議所新聞
やっさもっさ
2008年2月25日 Vol.354

三原JCビジョン
誇想創力

発行/社団法人 三原青年会議所
編集/広報委員会
三原市皆実4丁目8-1
三原商工会議所内
TEL (0848) 63-3515
FAX (0848) 62-1141
E-mail：info@mihara-jc.com
HP：http://www.mihara-jc.com

子どもたちの「自尊心」「思いやり」「郷土愛」を育める学校
子どもたちを地域の財産に・・・
地域の学校を地域の財産に・・・

08′三原JC
教育レポート

それが地域で作る、地域の学校（コミュニティ・スクール）

これからの学校のありかたを提案!

◆いじめや不登校、学力低下、子どもを狙った犯罪など子どもたちを取り巻く様々な問題が報道される中「地域の防犯パトロール」や「おやじの会」などの活動で、地域の大人が子どもたちと関わる機会は増してきたように感じます。しかしまだ多くの方が理解していても**行動に移せない**、または移していないというのが現状ではないでしょうか。

◆では、地域の大人が積極的に学校教育へ関わることができ、同時にその声が反映される状況をつくるにはどうすればよいのでしょう。その答えのひとつが**「コミュニティ・スクール」**と呼ばれる地域主体で運営する公設民営の学校です。この制度が実施されると、子どもたちに関わる様々な問題を、PTAだけではなく地域の大人たちもより積極的に参加して解決してゆくことが可能となります。また、このシステムを発展させると校長先生をはじめとした先生たちの人事権に意見することも可能となります。

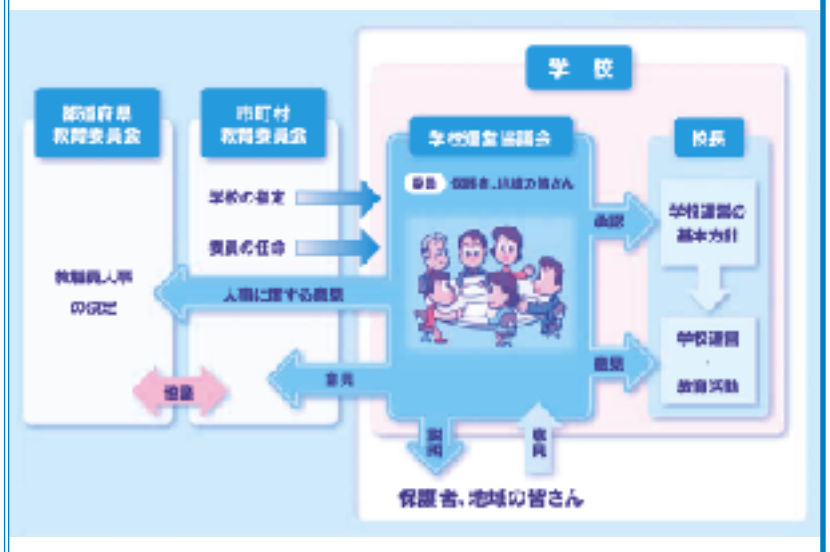
◆しかし、学校に対して意見や承認を行うだけではより良い学校作りとはなりません。同時に学校の**運営に責任を負う**ことになるのです。責任の無い権利では何も生まれないからです。

◆地域が主体となって取り組む教育とは、すべてを学校任せにするのではなく、家庭で行うべき教育（しつけ）は家庭でしっかりと行いつつ、保護者と地域の人たちと先生たちが**協力して子どもたちを教え育もう**ということです。こうした活動の中で地域の大人と子どもたちのふれあいが生まれ、郷土芸能などの伝統行事を後世に引き継いでゆくことへと繋がり、郷土愛へと繋がっていくものと考えます。

◆**想像してみてください**、地域の大人が子どもたちの安全を考え郷土芸能を通してふれあい、子どもたちと真剣に向き合い育む環境で、子どもたちがどのような大人になってゆくか。この無限の可能性を秘めた地域主体の教育環境＝「コミュニティ・スクール」を実現させるため、地域の教育力向上委員会は**今後様々な提言**をしてゆこうと考えています。

すべては子どもたちの明るい未来のために…。

コミュニティスクールの説明図



教育委員会から指定を受けた学校に地域住民やPTAの代表による「学校運営協議会」を設け、そこで得られた意見を参考にして学校の運営方針を決定することができる。

地域の教育力向上委員会
花田委員長

【委員長のコメント】
地域ぐるみで子どもたちを育みましょう。
『子は宝
じっくり仕込め
二十年』

◆この記事に関するご意見やご感想、あるいは「コミュニティスクール」についてのご質問などは（社）三原青年会議所　地域の教育力向上委員会　委員長の花田までお気軽にご連絡下さい。

みたかきいたか

私が通っていた小学校には、ある銅像があった。薪を背負い、本を読む姿の二宮金次郎である。次から次へと明るみになる企業の偽装事件。官僚の腐敗堕落。とても勤労の精神などは感じられない。私達日本人は、思いやりがあり、誠実な、世界に誇れる民族ではなかったのか。一体この国はどうなってしまうであろう。自らの利益ではなく公共性を尊重するという道徳観が欠如しているようだ。今の世の中を観ていると、教育の影響というものを強く感じる。◆そんななか、先月後半の中国新聞の記事に一光の兆しを見た。その内容は、興譲館高校野球部（岡山）の野球ではなく「人間力」を軸とした指導内容である。それは、野球を離れてからの人生も考慮して、日常の礼儀と規律を徹底して指導するというもので、グランド外でも清掃活動や地元の祭り運営の手伝いなど、地域とのつながりを深める活動も行っている。試合には、あまり野球を知らない地域の方が応援に行くことがあるという。監督１０年目、野球の結果も結びつき、初の甲子園切符をつかんだ。◆この記事を、私達が目指している「学校と地域が一体となって子どもを育む」という姿を重ね合わせて読んだ。このような光景を三原で見ることができる日はそう遠くないはずだ。